

令和元年度 事務事業総点検シート(1)  
[平成30年度事務事業]

特別会計		事務事業分類			詳細点検
事務事業名	認知症サポーター等養成事業			シート番号	A 一般事務事業 11-069
担当部署名	健康福祉	局	長寿社会	部	地域包括ケア推進 課 評価責任者(課長名) 阿加井

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	2	地域全体で支える福祉の仕組みづくり	有
	2	事業開始年度	平成 23 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン) 介護保険法			
	4	関連計画	堺市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(平成30(2018)~32(2020)年度)			
5	事業実施の経緯	「認知症サポーター等養成事業の実施について」(平成18年7月12日老計発第0712001号厚生労働省老健局計画課長通知)に基づき実施(「認知症を知り地域をつくる10力年」キャンペーンの一環として実施)組織改正に伴い、平成23年度から健康医療推進課から当課へ移管し、当該事業を実施した。介護予防事業費として実施していたが、平成28年度から包括的支援事業費任意事業費として実施(新オレンジプランの施行に伴うもの)				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 ( ) <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ( )			
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	認知症高齢者とその家族等関係者 認知症を理解に関心のある市民			
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	認知症になっても安心して暮らせるまちをめざし、認知症に関する知識を広め、日常生活の中で認知症の人に会ったときに、その尊厳を損なうことなく適切に対応することができる人を増やすこと。			
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	認知症に関する普及啓発の推進として以下の項目を実施 ・高齢者が認知症になっても、住み慣れた地域で尊厳を持って生活できるよう、認知症について正しく理解し、認知症の方やその家族を温かく見守り支援する認知症サポーターの養成講座を開催 ・こどもたちにも年齢に応じて、認知症や福祉について学べるよう、学校の協力のもと小中学生を対象として、認知症キッズ・サポーター養成講座を開催 ・認知症養成講座の講師役となる認知症キャラバン・メイトの養成			
10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (協力団体の活動)				
		(社福)堺市社会福祉協議会				

Ⅲ. 投入量

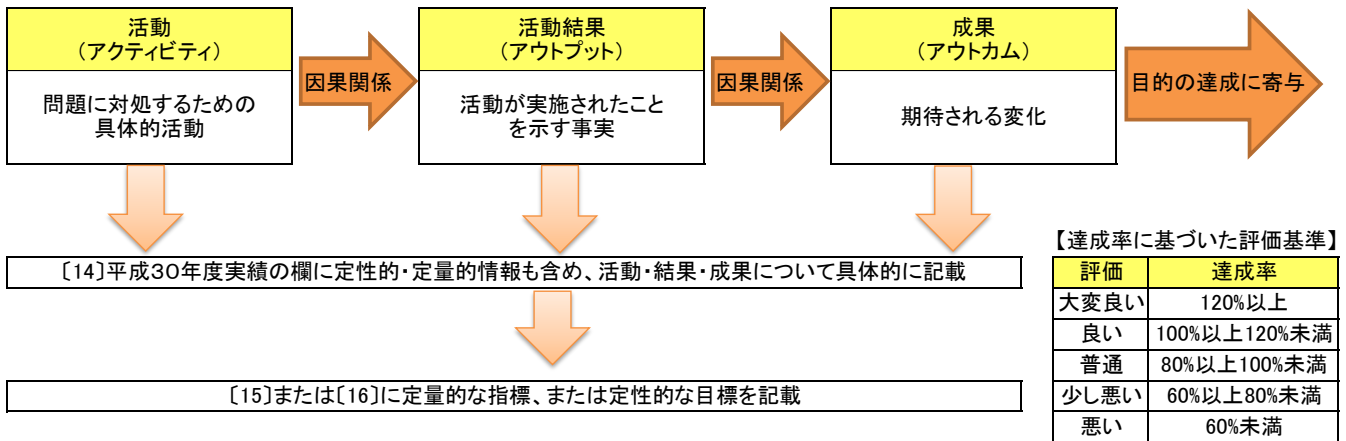
項目	単位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算	
11 事業費 (a)	千円	141	1,074	934	998	
主な事業費内訳	委託料	千円	0	882	826	678
	消耗品費	千円	115	0	0	10
	印刷製本費	千円	0	192	98	310
	その他	千円	26	0	10	0
	国・府支出金	千円	82	628	539	576
	財源内訳	千円				
受益者負担金(使用料、手数料等)	千円					
市債	千円					
その他(被保険者保険料)	千円	32	237	215	230	
一般財源	千円	27	209	180	192	
12 人件費 (b)	千円	1,640	820	820	660	
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	1,781	1,894	1,754	1,658	

## 令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	認知症サポーター等養成事業	シート番号	11-069
-------	---------------	-------	--------

### ≪Ⅳ. 評価(測定・分析)≫

#### ロジックモデルの考え方



#### 事業の活動内容や成果

平成30年度実績									
活動実績と成果	14	<p>・高齢者が認知症になっても、住み慣れた地域で尊厳を持って生活できるよう、認知症について正しく理解し、認知症の方やその家族を温かく見守り支援する認知症サポーターの養成講座を開催。 認知症サポーター数 平成30年3月末:58,715人→平成31年3月末:66,560人(7,845人増)</p> <p>・子どもたちにも年齢に応じて、認知症や福祉について学べるよう、学校の協力のもと小中学生を対象として、認知症キッズ・サポーター養成講座を開催 平成30年度開催実績 小学生対象43箇所、中学生対象3箇所、高校生対象4箇所、大学・専門学校生対象6箇所</p> <p>・認知症養成講座の講師役となる認知症キャラバン・メイトの養成 認知症キャラバン・メイト数 平成30年3月末:766人→平成31年3月末:838人(72人増)</p> <p>※※平成30年度認知症サポーターキャラバン報告会 認知症サポーター養成状況優良団体 感謝状贈呈について※※ 厚生労働省の補助事業として、全国キャラバン・メイト連絡協議会が実施するもの 「人口50万人以上」「人口50万人未満20万人以上」「人口20万人未満5万人以上」「人口5万人未満」の区分により、4自治体が「サポーター養成状況優良自治体」として表彰される。平成29年12月～平成30年11月の期間で、サポーター養成数が10,824人と人口に占める養成数が多く、平成31年2月2日に表彰。</p>							
		15	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
			認知症サポーター年間養成数	人	目標値	9,000	9,000	9,000	9,000
					実績値	9,285	11,713	7,845	
					達成率	103%	130%	87%	
		評価			良い	大変良い	普通		
		算出方法・設定根拠など		高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に定められた目標達成のために必要な到達水準を年次で落とし込みしたもの。					
		16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
			講師役であるキャラバン・メイト年間養成数	人	目標値	50	150	150	80
					実績値	97	86	72	
達成率	194%				57%	48%			
評価	大変良い	悪い			悪い				
算出方法・設定根拠など		高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に定められた目標達成のために必要な到達水準を年次で落とし込みしたもの。							

#### 業績の分析

		目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
17		<p>平成30年3月に策定した堺市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画においては、計画の最終年度である2020年度の目標として、認知症サポーター数84,000人(総人口の1割程度)・認知症キャラバン・メイト数1,000人と設定していた。</p> <p>サポーターやキャラバン・メイトの養成講座ともに数年間にわたって重点的に取り組んできた中で、多少定着してきたこともあってか、平成30年度はサポーター数やキャラバン・メイト数の伸びは若干鈍化し、平成30年度に事務事業総点検シートに記載した年間目標は下回ったものの、上記の計画記載の目標の達成に向けて、ともに着実に増加してきている状況にあると考えている。</p> <p>しかしながら、団塊の世代の高齢化などに伴い、認知症の高齢者が今後益々増加していくことが予測されている中で、より多くの市民が認知症の方への正しい理解を持つことが重要であり、今後より広範に事業を周知し、サポーターをさらなる増加を図っていく。</p>

#### 【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。